

はっくつ 2001

=栗東市話題の発掘調査=



小柿遺跡・土器埋納柱穴
(4頁に関連事項)

栗東市教育委員会・(財)栗東市文化体育振興事業団

平安時代の屋敷が出土

—— 霊仙寺遺跡 ——



▲掘立柱建物検出状況



▲緑釉陶器出土状況

今回の調査地は、遺跡の北西端に当たります。1999年の調査で、飛鳥・白鳳時代（7世紀後半）の区画溝から斎串や馬形などの木製祭具や「勾連」や「道師」とかかれた木簡が出土し注目された、十里遺跡に接しています。

調査ではその十里遺跡に続く、奈良時代、平安時代の土器などが出土しました。溝や掘立柱建物などの遺構は、主に平安時代のもので、建物の規模は大きくありませんが、緑釉陶器が比較的多く出土している点が注目されます。

また、溝から弥生時代前期や後期の土器も出土したことから、弥生集落が存在していたようです。

縄文のピット群と集石遺構

—— 手原遺跡 ——

手原遺跡は、手原駅周辺に広がる飛鳥時代～奈良時代にかけての寺院や役所の跡が存在していた遺跡として知られ、今回の調査でも南北方向に向けた奈良時代の建物が見つかっています。

下層からは、この遺跡ではめずらしい古墳時代前期の土坑や縄文時代と思われるピット群や集石遺構が見つかりました。ピットのなかには焼土、炭を含むものもみられ、生活の痕跡が伺われます。また、土器は確認されていないが石礫が合計7点見つかっています。



▲縄文時代の石礫



▲下層のピット群と集石遺構

▶ 調査地全景(上図参照)



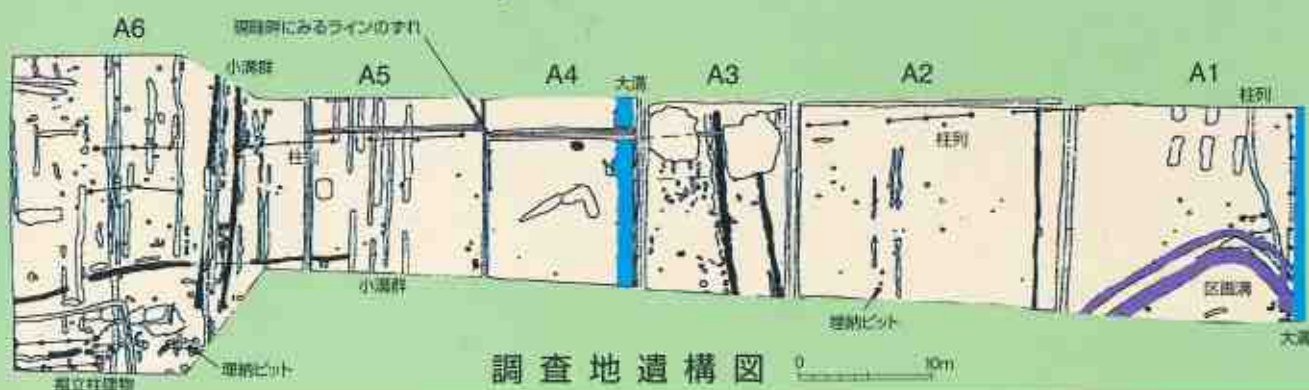
旧栗太郡は、古代の土地区画方法である条里が、良好に残存している地域として知られています。

下鉤東・蜂屋遺跡は、栗太郡主条里の四条五里27坪と28坪にあたります。一辺110m強方格地割りのほぼ中心部分が約二町分調査され、掘立柱建物、柱列、溝などが見つかりました。方格地割りのほぼ中心および両側には、大溝と柱列が存在します。また柱列は、小溝にあわせて2～3間単位で存在し、柱列と小溝の間隔は約10m弱の一定幅をもって規則正しく区画されています。

条里遺構の時代は、出土した土器からおおむね11世紀～12世紀(平安時代後期)と思われます。

この他、南北方向に沿った奈良時代の区画溝が確認されています。

▶ 奈良時代の南北方向を向く区画溝

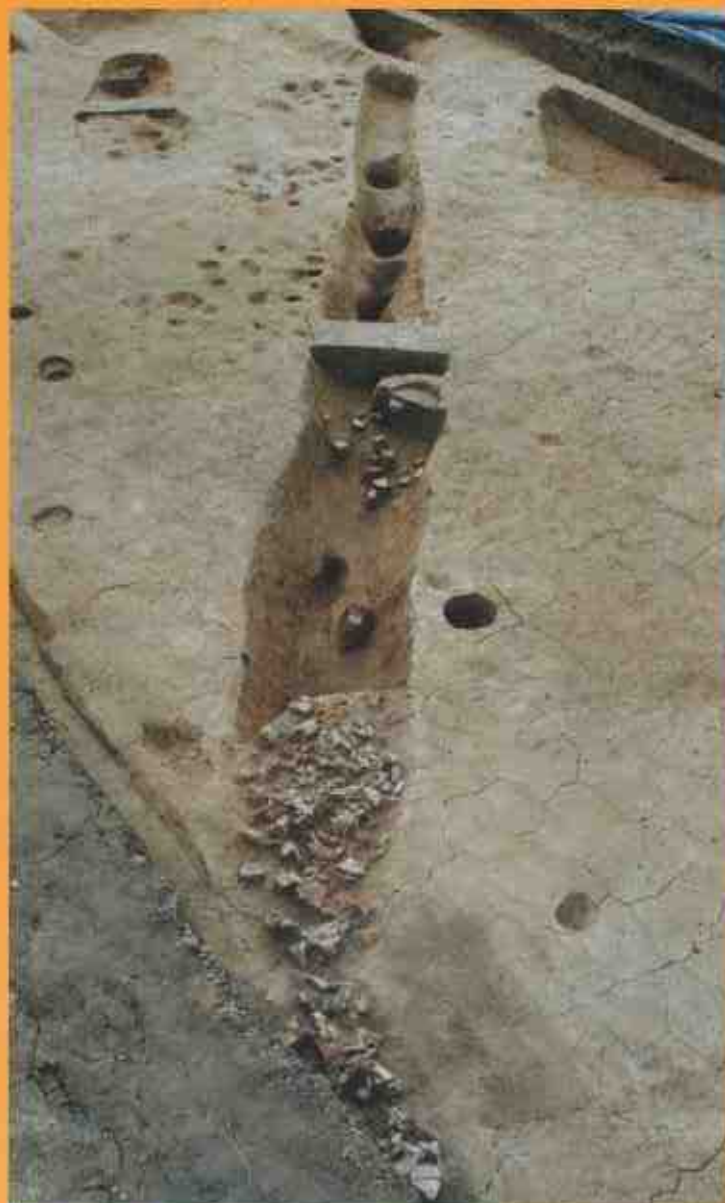


調査地遺構図

弥生時代後期の集落 小柿遺跡

小柿遺跡は、弥生時代から古墳時代の墓がたくさん存在している地域として知られています。近年の調査では同時代の集落の様子が少しずつ明らかになりつつあり、約100mの範囲で集落がひろがっていることが予想されるようになりました。

今回の調査では、弥生時代後期末の竪穴住居、掘立柱建物、溝などがみつかりました。注目すべきものとしては、建物の柱穴の中から、ほぼ完形の土器が二ヶ所みつかりました。おそらく建物を廃棄する際にまつりが行われ、そのときに使用された土器が埋められた可能性があります。



▶ 長頸甕を埋納した柱穴

▶ 溝の土器出土状況



▲調査地全景(写真左下と右奥に竪穴住居がみえる)



はっくつ2001 ー栗東市話題の発掘調査ー
発行日 2002年3月31日
編集・発行 (財)栗東市文化体育振興事業団
埋蔵文化財調査課
滋賀県栗東市下戸山47
栗東市出土文化財センター内
TEL.077-553-3359
FAX.077-553-3514

印刷・製本 株式会社 スマイ印刷工業

R100